

# ボートレースびわこ マスターへの道

## その34 モーター相場はひっくり返るもの!

### ●パワーランクの変遷に注意!

季節外れのオバケが全国各地に現れて大騒ぎしているようだ。もちろんオバケといっても「うらめしや〜」という幽霊の類いではなく、ボートレース界で言う、驚くほど強力なモーターのこと。一緒に走った選手があきれたように「なんだあいつのモーターは、化けもんみたいに出ていやがる」とか何とか言ったのだろう。俗語なのは変わらないが、現在ではいわば専門用語として「オバケモーター」という言葉がすっかり定着している。

その「オバケ」が各地のレース場で文字どおり大暴れしているのだ。現役モーターで最も有名なのは戸田の「44号機」だろう。誰が乗っても強力なパワーで、筆者も直線で前の選手を追い抜くのをテレビで観たときは本当にたまげた。少し前までの平和島「70号機」も評判の「オバケ」だった。

しかし、関西地方のボートレースファンにとって「オバケが出た」といえば、「びわこだろ?」となるのが普通である。伝説の「雄琴号」や「唐崎号」(以前はびわこのモーターには番号以外にも1つ1つにそれぞれ名前がつけてあった)の時代から毎年突出して強力なモーターが出現している。それはびわこの競走水面が「標高の高い淡水湖」という他所にはない特異なレース場であることも、大きな要因になっているといえる。つまり、元来パワー差の出やすいレース場なのだ。

このびわこのようにインが弱いレース場は、思い切って仕掛けてくるダッシュ艇の活躍などで、よりパワー優位となる傾向がある。前出の戸田や平和島

がまさにそうだし、桐生や福岡もその傾向にある。

### ●データを洗い出してみよう!

そして、今年度もびわこでは「65号機」という「オバケ」が出た。昨年6月の初下ろしから3ヵ月間の成績を見れば一目瞭然で、

誰が乗っても他を圧倒する成績を次々と叩き出した。年が明けて、2017年1月16日終了現在の通算成績でも依然トップに立っている。しかし、ちょっと待て。何か印象が違う…??

初使用からわずか3ヵ月ほどで群を抜く成績を積み上げた「65号機」だが、通算成績では同じトップながら数字的には2位の「43号機」とそれほど変わらないものになっている。通算9優出、4優勝は素晴らしい成績ではあるが、3ヵ月の時点で既に7優出、3優勝だったわけで、その後の4ヵ月間では2優出、1優勝で最高タイムも更新に至らず、「普通に優秀」程度にペースが落ちている。しかもよく見れば2位の「43号機」も、3ヵ月時点から特筆するほど成績を伸ばしているわけではないのだ。

つまり、3ヵ月時点で上位に並んでいたモーターは様に成績を下げている、いわゆる「パテてきている」ということ。代わって成績を伸ばしているモーターが他にある。それは3ヵ月時点では10位以下

びわこモーター「57号機」の通算成績

開催初日	レース別	登録	選手名	級別	1着	2着	3着	着外	2連率(%)	平均順位	結果
16.06.10	一般	4553	坪口 竜也	A2	1	0	1	6	12.5	5.36	予選落ち
16.06.19	一般	4558	宮野 仁	B1	1	0	3	6	10.0	2.00	予選落ち
16.07.01	一般	3694	木村 恒一	B1	2	2	2	5	36.4	5.36	準優敗退
16.07.09	ほぼ女子	3128	鳥居 智恵	B1	0	2	0	7	22.2	5.11	予選落ち
16.07.26	一般	4083	福島 勇樹	A2	0	2	1	6	22.2	3.44	予選落ち
16.08.11	一般	4120	柘植 政浩	A2	1	1	2	5	30.0	3.20	予選落ち
16.08.20	GⅢ全女子	4621	坂田 麻衣	B2	0	0	1	7	0.0	3.75	予選落ち
16.09.07	一般	3231	吉田 隆義	A1	3	3	3	2	54.5	2.82	準優敗退
16.09.15	一般	3930	岸本 隆	A2	2	3	1	3	55.6	2.89	準優敗退
16.10.01	GⅢ企業杯	4743	木村 仁紀	B1	2	0	3	4	22.2	3.56	予選落ち
16.10.15	GⅠ周年記念	4264	長尾 章平	A1	1	2	3	1	37.5	2.13	準優敗退
16.10.29	一般	3020	若女井 正	B1	2	0	3	5	20.0	3.40	予選落ち
16.11.06	ヴィーナス	4224	大橋米里佳	B1	0	2	2	6	20.0	2.70	予選落ち
16.12.08	一般	3365	野田 貴博	B1	5	2	0	4	63.6	2.91	準優敗退
16.12.19	一般	4336	松田 竜馬	A2	3	2	3	2	50.0	3.50	準優敗退
16.12.27	一般	4166	吉田 拓郎	A1	8	1	0	0	100.0	1.78	優勝
17.01.03	一般	3606	川北 浩貴	A1	8	3	2	0	84.6	2.08	優勝
17.01.12	一般	3562	山下 和彦	A1	6	1	1	1	77.8	2.11	優勝

の川北浩貴、そして滋賀支部のエース・守田俊介を捲りて仕留めた山下和彦と目下3節連続優勝中で、その間の成績は31戦22勝、2着5本という凄まじさだ。

### ●季節の変わり目は勝負のとき!

「モーターは生き物」とはよく言ったもので、季節ごとに各モーターの性能に変化が訪れるのは必然であり、それを1年間使用するというのであれば、最初の半年とあとの半年ではパワー相場がそっくり変わって当然なのである。しかも、びわこでは名物となった「中間整備」のナタが振り下ろされてモーター相場に随時変化をもたらす。評判の「57号機」が「オバケ」かどうか、その正体はまだ正直わからない。むしろ「57号機」ばかりに周りが注目するようなら、舟券的には「26号機」や「30号機」により食指が動く。

一方、「65号機」は確かに昨年の夏は「オバケ」だったが、現在は「上位の一角」どまりである。しかし、逆に言えばまだ上位であり、決してお役御免になったわけではない。「43号機」も「39号機」もまだまだ「優秀機」である。これら、たとえ一時期だけでも素性の良さを示したモーターというのは、いったんパテ始めても季節の変わり目に突然息を吹き返すことがある。びわこ水面に春一番が吹き始めたら、半年前に上位に並んでいたモーターに再注目してみるのも一考である。

びわこモーター・ベスト10 (3ヵ月)

16.06.03~09.20

順位	M番号	節数	2連率(%)	勝率	優出	優勝	最高タイム
1	65	11	67.0	7.45	7	0	1'47"4
2	37	9	54.4	6.84	2	0	1'48"1
3	39	10	51.0	6.47	2	0	1'49"1
4	60	9	50.5	6.57	3	0	1'48"4
5	21	10	48.5	6.11	2	0	1'49"2
6	43	10	48.4	6.39	4	0	1'48"5
7	34	10	45.3	6.23	3	0	1'48"9
8	13	9	44.6	6.16	2	0	1'49"2
9	41	10	42.1	5.96	1	0	1'47"8
10	58	10	41.7	6.00	1	0	1'48"4

びわこモーター・ベスト10 (通算)

16.06.03~17.01.16

順位	M番号	節数	2連率(%)	勝率	優出	優勝	最高タイム
1	65	21	53.3	6.63	9	0	1'47"4
2	43	18	53.2	6.64	8	0	1'46"2
3	21	19	50.0	6.29	4	0	1'46"1
3	39	18	50.0	6.38	4	0	1'46"9
5	37	18	42.7	6.05	4	0	1'47"8
6	26	17	41.4	5.69	3	0	1'46"7
6	57	18	41.4	5.87	3	0	1'46"1
8	30	18	40.9	5.70	7	0	1'46"4
8	32	18	40.9	5.74	4	0	1'47"0
10	41	17	40.5	5.58	1	0	1'47"5

下だった「26」

「57」「30」「32」

ということになる。なかでも「新エース」の称号を得、ばく進中なのが「57号機」だ。何しろ暮れの吉田拓郎から、正月戦